

「道民とともに考える森づくりの集い」(札幌市)で 「知床森林センターで行うイベントに関する一考察」を発表

1月26日(日)札幌市において「道民とともに考える森づくりの集い」が開催されました。林業試験場や森づくりセンターなどの関係者が、一人15分の持ち時間でプロジェクターを使い森林に関する様々な情報を発信しました。センターからは、イベントの際に参加者に協力していただいたアンケートを分析した結果を発表しました。その要旨は次のとおりです。

1 参加者の構成について

レクインは平日に行っているため、50～60歳代の主婦の参加が多い。森ふれは休日、特に木工教室は夏休みや冬休みに行っているため、小学生やおかあさん、おばあさんの参加が多い。

2 参加者アンケートの概要

(1) 参加しやすい曜日

平日に行っているレクインの参加者からは平日69%、休日31%の希望があり、休日に行っている森ふれの参加者からは平日15%、休日85%の希望がある。

このことから、平日に参加しやすい人がレクインに参加し、休日に参加しやすい人が森ふれに参加していることが想定される。

(2) 興味があるイベントの種類

レクインの参加者は、登山が最も多く、次いで散策で、この両方で6割を超える。その後に歩くスキー、木工教室、炭焼き体験が約1割で続いている。森ふれの参加者は、木工教室が約3割を占め最も多く、次いで登山、散策がそれぞれ約2割、その後に炭焼き体験が約1割で続いている。

レクイン、森ふれとも、イベントの内容と参加者の興味があるイベントの項目が一致しているものが多いので、多くの参加者は、森林・林業について知る上で、レクイン、森ふれのうち自分の興味があるイベントに参加していると思われる。

一方、興味があるイベントの種類で上位にあるもののうち、レクインでは木工教室及び炭焼き体験を、森ふれでは登山を行っていない。このことにより、森林・林業に関心のある人の中で、たとえば森ふれで実施する内容に最も興味があるが、開催日(曜日)等の都合で、レクインに参加せざるを得ない(あるいはその逆)という人々もいると思われる。このことは「(1)参加しやすい曜日」からもうかがえる。

まとめとして、当センターで行うイベントは人気が高く、毎回募集者数の約1.5～3倍の応募をいただいている。しかも、イベントごとに参加者を募っているため、毎回一部の方を除き初めての参加者になるので、参加者には新鮮な驚きがあり、満足感も与えることが出来ると思われる。

今後はこれまで取り組んできたイベント内容に加え、国有林の森林・林業施策を実行する上でのイベントの役割などを検証し、実施内容などを更に吟味して参りたい。

(文中、森林レクリエーション知床は「レクイン」、森とのふれあいは「森ふれ」と略しています)

初の新規採用職員が着任

1月1日付けで総務係として、新潟県から来ました池田陽介です。斜里岳やオホーツク海の素晴らしい四季ある風景を胸に仕事をしていきたいです。趣味はスポーツですが初めて歩くスキーをしました。雪質の違い、スキーの難しさを強く感じました。今後、生活面も含めて、様々な仕事を学んでいきたいです。よろしくお願ひ致します。

人の動き

新規採用(総務係): 池田 陽介

知床の森から

平成15年2月発行 第82号



北海道森林管理局北見分局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



知床は今

知床森林センターが設置されて、15回目の新年を迎えることが出来ました。

これまでいろいろな形、あるいは立場でご支援いただきました皆様方に感謝申し上げます。

さて、今年の斜里町は雪が降るのが早く、例年ですと12月中にはタイヤショベルによるセンター構内の除雪はやらないのですが、12月17日を皮切りに年内に2回行いました。

年が明けて1月12日にウトロ港に流氷が接岸しましたが、これは昨年よりも遅かったものの、最近10年間では3番目に早い記録だそうです。また、天気の良い日に、名峰斜里岳や知床連山を見ることができると、「今日も1日



冬の知床連山

頑張るぞ」という気になります。

以久科から止別あたりの海岸線は、今の時期は絶好の歩くスキーのコースになっています。一歩足を踏み入ると、そこにはトドマツやアカエゾマツの造林地、カシワ天然林、そして秋には小鳥に美味しい実を提供するエゾノコリンゴなどがあります。キタキツネ、エゾユキウサギ、エゾリスなどの足跡も発見することができます。『いたずらキツネ』がそこら中で転げ回ってできた紋様も発見することができます。



オシンコシンの滝近くの流氷

第45回森とのふれあい

「親子木工体験」を開催

～小学生、おかあさんなど31名が参加～

1月11日（土）に、センターのセミナー室において、「第45回森とのふれあい親子木工体験」を開催し、抽選で選ばれた31名の親子が参加しました。

最初に、職員から材料や道具などを使用するに当たっての注意事項を説明した後、皆、思い思いに考え、材料を手に取り、工作づくりに取り組みました。

材料は、小枝・マツカサ・ドングリ・小石・落ち葉・セロファン・折り紙などで、それぞれ工夫を凝らしながら悪戦苦闘の末、昆虫、飾り時計、ステンドグラスなどを作っていました。

センター職員も、子供やおかあさんがもってくる小枝を、斜めや薄く輪切りに切断したりして汗だくの奮闘で、約3時間の工作づくりを無事終了することができました。

子供達は、「冬休みの宿題ができた」と喜んで帰っていきました。



道具を使用する際の注意事項を説明しました



思い思いに作りました

こんな作品ができました



第46回森とのふれあい

『歩くスキーで濤釣沼周辺を散策』を開催

今年度最後の森とのふれあいを2月9日（日）に濤釣沼で開催しました。

今回参加していただいた方は、男女ともに7名ずつの14名で、最高齢は80歳の男性、最年少は8歳の朝日小の児童3人組でした。

9時20分に現地に到着すると、上空をオジロワシが旋回し、出迎えてくれました。

体操で体をほぐした後、スキーに履き替え、散策を開始しました。

途中、トドマツ、アカエゾマツ、カノワ、エゾノコリンゴと樹種が変わるごとに、それぞれの木の特徴、用途、名前の由来など、また周辺の海岸林は潮害防備保安林に指定され、海岸からの塩分を含んだ風を弱め、畑などへの塩害を防いでくれていることなどについてインストラクターから説明を行いました。

また、今回は町立知床博物館から学芸員の方に同行していただき、雪の上にある動物の足跡の見分け方や冬の間周辺の海岸で見ることができる動物についての説明などを聞きました。

このところの暖気により、残念ながら流氷もかなり遠くに離れていました



小学生もさっそうと滑っていました



カシワについて説明しています

が、後方の海別岳^{うなべつだけ}を背景に全員で記念写真を撮った後、来た道を引き返し、約90分の自然散策を終りました。

なお、参加した皆さんのアンケートの中で、「歩くスキーなんだから、もう少し長い距離を滑りたかった」という意見をいただきました。今後の課題にさせていただきます。



全員で記念撮影（曇天のため海別岳は写りませんでした）